



2017年10月1日発行
(毎月1日発行)
1984年8月15日第3種郵便物認可
発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739
熊本市中央区新町1-3-8
Tel 096-353-6397(代)



YMCA国際ユースボランティア
熊本大学文学部2年
し ぶ や は る か
澁谷 明佳さん

1枚の写真に導かれ海外でボランティア

アフリカの大地に小さな子どもがうずくまっている。その横でその子が息絶えるのをじっと待つ大きな鳥——。「ずっと心に残っています。世界で起きている飢餓のことは知っているつもりでしたが、この写真からすごく残酷な現実を突きつけられました」。

『ハゲワシと少女』(ケビン・カーター撮影／1994年 ピューリッツァー賞)。澁谷さんがその写真を見たのは高校生の時でした。以来ずっと、飢餓や貧困など、世界の人々が直面する問題に関心をもち続けています。大学に入学してボランティアをしたいという気持ちが強くなり、持ち前の行動力を発揮。1年生の時に、YMCAのタイ・ユースワークキャンプに参加し、北部タイでのボランティアを経験しました。それをきっかけにYMCA国際ユースボランティアのメンバーとなり、YMCAの震災復興ボランティアなどにも参加しています。「YMCAで活動続けるこ



ワークで整備したコミュニティスペース

考え続ける、 “本当の豊かさ”

とで、世界で起きている問題を知ることができます。YMCAで自分にできないことがないかないつも思っています」。

英語力不足を痛感した地球市民育成プロジェクト

澁谷さんは、「YMCA地球市民育成プロジェクト」にも参加しています。地球市民育成プロジェクトは、世界の様々な問題について学び、行動を起こすユース(青年・若者)の育成を目的にスタート。静岡県御殿場市にあるYMCAの研修施設で行われる夏期研修では約1週間、日本各地や海外から集まったユースと過ごし、フィールドワークやアクションプランの発表に取り組みます(3面に関連記事)。

その間のコミュニケーションは英語。「世界の問題について夜中まで話し合い、刺激を受けましたが、同時に英語力の無さを痛感しました。伝えたいことはいっぱいあるし、意見をもっと話したかったです。でも、単語が出てこなくて、とても悔しい思いをしました」。早速、大学では留学生に積極的に話しかけるなど、英語力をアップさせようと努力しています。



重ね合わせた、タイと“希望が持てない国、日本”

澁谷さんが夏期研修で発表したアクションプランは、ワークキャンプで出会ったタイのアカ族に関する内容。YMCAが支援している「若竹寮」の子どもたちが、タイの経済発展をどう受け止めているか知りたいと思ったそうです。きっかけは、夏期研修のフィールドワークで横浜の寿町に行ったこと。「高度経済成長の時代に日雇い労働などで生計を立てていた人々が今、どんな暮らしをしているかご存知ですか？ 町に住む人のほとんどは男性の単身高齢者。生活保護受給率が高く、アルコール中毒やギャンブル依存症で仕事ができない人たちもいます。経済発展が優先される中、だれも目を向けてこなかった問題が放置されているんです」と言葉にも熱がこもります。

その現状を目の当たりにし、タイの将来に思いを馳せたという澁谷さん。「タイの山岳少数民族の若者は、“日本のように発展したい”と思っているかもしれませんが、日本の同世代には、今後日本が発展していくイメージがわからず、希望が持てないと感じている人もいます。そして日本には経済成長後、社会から取り残された人々がいます。私にできることは、発展を続けるタイと今の日本を重ね合わせ、あるべき経済発展の姿、本当の豊かさ、文化を守ることとは何かを仲間と一緒に考えて行動していくことです」。澁谷さんのアクションプランは間もなく完成。年度末の評価会に向けて、計画が実践へと移っていきます。

互いを認め合い、高め合う 「ポジティブネット」のある豊かな社会を創る。

「ポジティブネット」とは、互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと。課題の多い社会のなかで、それは、生きるためのひとつの選択肢となっていく。私たち日本のYMCAは、グローバルなネットワーク基盤を活かしてポジティブネットを広げ、希望あるより豊かな社会を創ります。



I n f o r m a t i o n

行こう 見よう 深めよう

10月20日 Friday

講演会「離職者ゼロの仕組みづくり」 児童養護施設等の若者支援

若年層で起きている貧困の連鎖を「就労支援」という領域で解決したい——。地域と企業の連携で、若者たちの現在・未来を支援する仕組みとは何か。

日本初の児童養護施設等入所者・出身者専門の就職斡旋会社を立ち上げた永岡鉄平さんによる講演会です。

回 10月20日(金) 17:00～18:30(受付開始16:40)

約1時間の講演後、分科会を開催します。

場 熊本市現代美術館アートロフト(熊本市中央区上通町2-3)

※公共交通機関もしくは周辺の有料駐車場をご利用ください。

講師 永岡 鉄平さん(株式会社フェアスタート代表取締役社長/NPO法人フェアスタートサポート代表理事/横浜YMCA常議員) 費 無料 備 YMCAフィランソロピー協会

場 WEBサイトに10月16日(月)までにお申し込みください。

<http://www.kumamoto-ymca.or.jp/philanthropy/19621.html>



学ぶ
×
社会貢献



12月5日 Tuesday

市民クリスマス2017 高木慶子シスター講演会

クリスマス
×
講演会

「苦しみの中にも、幸せを見出すために」と題して、シスターの高木慶子さんによる講演を開催します。益金は熊本地震復興支援活動などのために用いられます。

回 12月5日(火) 18:30開場/19:00開演

場 くまもと森都心プラザホール 料 大人1,500円/学生以下1,000円 ※全席自由/未就学児無料

チケット取扱い 熊本YMCA各施設 熊本YWCA

備 市民クリスマス実行委員会 場 市民クリスマス実行委員会事務局 熊本YMCA TEL 096-353-6397



12月10日 Sunday

インターナショナル・チャリティーラン2017

走る
×
チャリティ

YMCAインターナショナル・チャリティーランは障がいのある子どもたちもそうでない子どもたちも共に幸せに生きていける社会をめざし、全国で開催されています。熊本では昨年、第1回を開催。晴天のもと、多くの参加者が汗を流しました。今年も多くの皆さんの参加をお待ちしています。



回 12月10日(日) 9:30～15:00(予定)

場 熊本県農業公園 カントリーパーク(熊本県合志市栄3802-4)

種目/参加費 [1]個人ラン<5km>/1人3,000円

[2]ファミリーラン<1km>1家族(4人まで)/1家族3,000円

[3]グループラン(宣言タイムレース)<1km×5人>/1チーム10,000円

[4]グループラン(小学生タイムレース)<1km×5人>/1チーム3,000円

※実施順ではありません

参加資格 本大会の趣旨に賛同し、完走完歩が可能な方(年齢や男女、障がいの制限はありません)

備 熊本YMCA 注 インターナショナル・チャリティーラン実行委員会

場 WEBサイトに11月30日(木)までにお申し込みください。

<http://www.kumamoto-ymca.or.jp/portal/19724.html>



10月15日・29日・11月11日

楽しみながらチャリティ センター祭

楽しむ
×
チャリティ

今年も各センターでお祭りを開催します。地域の皆さん、どなたでも来場可能です。内容は食バザー、ステージ発表、ゲームコーナーなど。益金は、災害復興支援、国際協力活動、地域活動、青少年育成等のために用います。

むさしフェスタ 合志市幾久富

空くじなしの抽選会に参加できる前売バザーチケットを販売中です。むさしマルシェも同時開催! お楽しみに。

回 10月15日(日) 10:00～開会式/開会式終了～14:00販売予定

場 むさしセンター(合志市幾久富) 場 TEL 096-248-6334

前進祭 熊本市中央区新町

中央センターとYMCA学院が実施する学生主導のお祭です。多彩な食バザーとゲームコーナーが自慢。メイン会場は広い体育館。天候に関わらず家族揃って楽しめます。

回 10月29日(日) 10:30～15:00

場 中央センター(中央区新町) 場 TEL 096-353-6391

帯山まつり 熊本市中央区帯山

東部センター祭と地域のお祭り「帯西まつり」が同時開催! 地域の皆さんと一緒に盛り上げられます。YMCA学院日本語科の留学生による国際色豊かな食バザーは健在! ぜひご来場ください。



回 10月29日(日) 9:15～15:00

場 帯西コミュニティセンターグランド(東部センター横)、帯山西小学校 場 TEL 096-382-6661

わいわい秋まつり 熊本市中央区出水

来場した皆が笑顔になり楽しいひと時を過ごすことを願って開催します。昔遊びやゲームなど、楽しい企画が盛りだくさん。園児や保護者はもちろん、地域の皆さんもぜひお越しください。



回 11月11日(土) 11:00～14:00(雨天決行)

場 YMCA水前寺幼稚園(熊本市中央区出水3丁目12-1)

場 TEL 096-362-4141

センター祭ではバザー出店品、抽選会賞品のご寄贈をお願いしております。ご協力いただける場合は、各センターにご連絡ください。

前進祭、わいわい秋まつりは駐車場がありません。公共交通機関等をご利用ください。

R | E | P | O | R | T

[8月18日⇒ 9月4日]

災害支援

心のケアを目的に 第6回あそぼうキャンプを開催

8月18日(金)～20日(日)、YMCA阿蘇キャンプにて第6回あそぼうキャンプを開催しました。東日本大震災で熊本に避難した親子の心のケアを目的として2012年にスタート。熊本地震等で被災した子どもたちも含め30名の子どもたちが参加しました。特徴は、精神科医や臨床心理士がアドバイザーとなって、子どもたちの心のケアをするカウンセリングを全プログラムに組み込んでいることです。

カヌー体験や、ホースセラピー、班ごとの共同作業、キャンプファイヤーなど今年も盛りだくさん。初

回からアドバイザーを務める精神科医の仁木啓介さんは「熊本では今春から学校に通えない中学生が増えています。キャンプに参加した子どもたちも一見何でもないように見えて、我慢して頑張ってきた子や、すでに症状が出ている子もいて、心のケアが必要です。キャンプでは、班ごとに皆で話し合いながら、作品づくりを一緒に楽しみます。こうして、『横のつながり』や『仲間意識』を育てることで、トラウマの重症化を防ぐことができます」と話しています。

職員 久保誠治



国際

留学生が日本文化を体験 浴衣で街ぶら探索

8月20日(日)、4月にYMCA学院日本語科に入学したばかりの中国・台湾・ベトナム・バングラデシュ・フィリピン・韓国・ネパール出身の28名を対象に、日本文化体験“浴衣でさく、街ぶら探索”を実施しました。全員浴衣は初めて。ボランティアに着付けをしてもらった後は、あちこちで撮影会がスタート! 素敵な写真がたくさん撮れました。

今回は、YMCA学院の日本人学生や着付けボランティアも参加し、グループに分かれて「街ぶら探索ミッション!」に挑戦。グループごとに与えられたお

題を街中で探しました。日本語、英語、時にはボディランゲージを使いながら、どのグループもミッションを達成。留学生に日本の伝統文化にふれてもらうという目的の他、「日本人にリアルな留学生の姿を知ってもらう」「日本人の異文化理解を促進する」という目的も達成され、有意義な一日となりました。留学生からは、「浴衣は思ったより暑かったけど、日本人の友だちもできてとても楽しかった」と、笑みがこぼれていました。

職員 守田愛沙



ユース

地球規模の課題に取り組む 地球市民育成プロジェクト

8月29日(火)～9月4日(月)、静岡県御殿場にあるYMCA東山荘を拠点に行われた地球市民育成プロジェクトの夏期研修に参加しました。このプロジェクトは、夏期研修で各自がアクションプランを設定し、その結果を年度末に発表するという一年を通した取り組みです。

研修では、地球規模の問題について様々な側面から考えを深めることができました。全ての学習、会話が英語において行われ日本人だけでなく多様な人々の考えについて直接聞くことができたことで、

「地球市民」となって考えることの大切さがよく分かりました。また、フィールドワークでは、実際に見てみないとわからない多くの気づきがあり、これまで考えることがなかった日本の貧困や差別について考えることができました。私が決めたアクションプランは「日本のレフトオーバー(食べ残し)を減らす」。年度末の発表に向けて、この目標に取り組みながら、地球市民として、生活していきたいと思えます。

YMCA国際ユースボランティア
熊本大学2年生 高見理絵

岡 総主事の タラント Vol.41



革新のはじまり

YMCAは今、一人ひとりの「私」にとって、かけがえない場所になろうと、オールジャパンでYMCAブランドの革新を始めました。

10月1日より、日本全国で慣れ親しんだ逆三角形のマークが変わりました。今回のYMCA NEWSもデザインが変わっているのにお気づきでしょうか。新しいロゴマークの愛称は「ポジ

ティブY」。鳥が飛び立とうとする瞬間の姿をモチーフに、一人ひとりの生命の息吹、未来へ向かう前向きな力、平和への想いを表現しています。

——あなたが、したい何かを「みつける」ために。あなたが、「つながりたい」誰かを探すために。そして、あなた自身の人生というものがもっと「よくなる」ために。——

1844年のイギリスのロンドンにて創立し、日本では1880年、熊本では1948年より、青少年活動の先駆的役割を果たしてきたYMCA。この運動を再構築し、現存の事業の質を高め、人々からの共感、支援・寄付、賛同を得られるよう、YMCA会員の参画と地域社会との連帯をめざします。革新を行っていくためには、社会との約

t a l a n t o n

束であるブランドコンセプト「互いを認め合い、高め合うポジティブネットのある豊かな社会を創る」に基づいて、YMCA全事業の価値を高める必要があります。私たち職員はもとより、ユースリーダー、委員、ワイズメンなど全てのYMCA会員の結集と意識の変革が必要です。ひとりが「よくなる」とその人と出会った誰かがうれしくなり、よくなる連鎖は社会や世界を変えていくチカラとなって、平和を形にしていける原動力となっていく。この強い思いを胸に、YMCAの在るべき姿を社会に発信していきます。

「みつかる。つながる。よくなっていく。」

このブランドスローガンとロゴマークに新しい息を吹き込み、共に歩んでいきましょう。

追悼 医師として、クリスチャンとして 日野原重明さん

日本の社会に多大な貢献をした日野原重明さんが今年7月18日、105歳で逝去されました。日野原さんは、生活習慣病という言葉や人間ドックの提唱など予防医学の先駆けとして多くの功績を残しました。また“生き方上手”として、多くの人々に勇気と希望を与えました。

日野原さんがYMCAと出逢ったのは学生時代です。京都帝国大学(現 京都大学)の学生YMCAの寮「地塩寮」で医学生時代を過ごし、のちに東京YMCAのアドバイザーとして長く日本のYMCAを支えました。

熊本では、1998年11月、熊本YMCA創立50周年記念式典で「ボランティア活動の中に生きがいを見よう」と題して講演。当時87歳だった日野原さんの話に多くの人々が胸を打たれました。数年前からは毎年のように熊本で1500名を越える規模の講演会が開催され、熊本YMCAとの関係も続きました。

2013年には、熊本YMCAのインタビューの求めに快く応じ、「健康」「平和といのち」についての日野原さんの言葉は、本紙YMCA NEWSやWEBサイトで広く伝えられました。このような関係から、昨年の熊本地震に際し、YMCA復興支援募金の呼びかけ人になったのも日野原さんです。

日野原さんは実践の人でした。新しい取り組みもまずやってみる。そしてよいものはやり続けるという見本をいつも周囲に示し続けました。人々のために自分の命を使う。それが日野原さんの生き方だったのではないのでしょうか。

近年は特に子どもたちに向けて、平和といのちの大切さを伝える活動に力を入れていた日野原さん。使っていた10年手帳には2020年までの予定が入っていたといいます。日野原さんのご冥福を祈ります。熊本YMCAは日野原さんの意思を受け継ぎ、人と社会に貢献していく考え方を広げていきます。

YMCA職員の中村賢次郎さんが日野原さんを訪ねた際のインタビューをWEB上で公開しています。

<http://www.kumamoto-ymca.or.jp/portal/8408.html>

熊本YMCA 日野原重明



熊本YMCA創立50周年記念講演会



2013年インタビュー時の様子



YMCA水中運動会

9月3日(日)、ながみねファミリーセンターにて親子一緒に水泳を楽しむ「水中運動会」を開催しました。水中サーキットや玉入れ、宝さがしなど盛りだくさんの競技が行われ、139名の参加者で賑わいました。



わたしと聖句

コロサイの信徒への手紙3章2節

上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれないうようにしなさい。

上にあるものに

四歳になる孫の世話で、妻はずいぶん長い間、東京の長男の家で過ごしたことがある。

彼女はひとりっ子なので、いつも、

「おばあちゃん、遊ぼう」

と自分の相手を妻がしてくれることを期待する。いくら孫がかわいいても四六時中相手をするのでは疲れてしまふ。ではどうやって世話をしたのか。

彼女が選んだ方法は、近くにあった自然に満ちた大きな公園に毎日出かけることだった。

そこには森がある。川がある。遊具がある。たくさん

の子どもたちがいる。妻はそこへゆくと孫から解放される。

孫もまた、ビデオや、すぐにあきてしまう家の中のおもちゃからも解放される。彼女の相手は、大きな自然だ。森や木々、川の水、土や砂、そして、そこで出会う子どもたち。時間はいくらあっても足りない。その間、妻は、近くのベンチで本を読む。

子どもにとって大自然こそは、最高の遊び場であり、学び場だ。言い換えれば、そこでは神様が子どもの遊び相手をしてくださる。

子どもから悪いものを取り去るだけでは十分ではない。さらにすぐれた、よいものを提供する。それが子どもを健全に育てる道ではないかと思う。

私たちの心を変革する道も同じだ。上にあるものに心を向け、美しいものへの憧れで心がいっぱいになれば、いつのまにか地上の思い煩いから、自由にされている自分に気がつくのではないだろうか。

大津キリスト教会

米村英二

発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区新町1-3-8
TEL 096-353-6397(代)
発行人／岡 成也 編集人／富森 靖博
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2017年度基本聖句

ヘブライ人への手紙 13章5節

わたしは、決してあなたから離れず、決してあなたを置き去りにしない。